

# <思春期教室を実施して>

ほけんだより  
2年特別号



真岡市では、心や体の成長とともに、自分の意見とまわりの意見とのちがいに、悩んだり、苦しんだりしながら成長している思春期の生徒たちを対象に、思春期教室を実施しています。

(対象は中学2年生)

本校においても、相田美智子助産師と保健師(真岡市子ども家庭課)をお招きして、9月11日に「思春期教室」を実施しました。

今回の貴重な体験をもとに、生徒や保護者からいろいろな感想をいただきましたので抜粋してご紹介します。また、裏面には、思春期教室実施前後の意識の変化を比較しました。

## <生徒の感想>

- ・自分たちが産まれてくるためにいろいろな人が関わってくれていたことがわかった。
- ・妊婦体験をして、自分のお母さんがこんなに大変な思いをして気を遣ってここまで育ててくれて、とても愛を感じます。
- ・45億分の1の確率で生まれてきたことを聞いて、これからは周りだけではなく、自分のことも大切にしたいです。
- ・妊娠をしているときの大変さが、妊婦体験をしている友達の表情や行動でよくわかりました。妊婦さんがいたら、自分から声をかけて手伝いたいと思いました。
- ・思春期は大人に近づく年頃として、自分自身を見つめ直すために必要だということがわかりました。
- ・助産師さんのお話から、今生きていることが奇跡ですばらしいことであり、これからは自分のことも、家族のことも、友達のことも大切にして生活していきたい。
- ・赤ちゃん抱っこをしていて、女性の大変さがわかりました。
- ・妊婦体験をして、階段の上り下りだったり、靴をはいたりするときが大変だったけれど、いちばんつらかったのは寝るときでした。これからは、妊婦さんがいたら助けるように心がけたいと思いました。
- ・今自分がいるのは、親のおかげだと実感でき、これから元気に生きている姿を見せることで、感謝を示そうと思いました。
- ・命のありがたさがわかった。生まれるまでに、いろいろなことがあるけれど、自分で決めた誕生日にがんばって生まれてきたので、自分はすごい人なんだということもわかりました。
- ・「生きてるだけで100点満点」という言葉に、感動しました。



## <保護者の感想>

- ・妊婦体験などは男の子にとっては、とても良い体験になったのではないかと思います。自分の命やの大切さや、親が子を思う気持ちなど、少しでも理解できていたらいいなと思います。
- ・助産師さんがおっしゃっていた「生きてるだけで100点満点」という言葉は、子どもが無事に生まれたときに何よりもうれしかったときの気持ちを思い出させてくれました。そして、母親として、妊娠から出産まで苦勞しながらも、がんばって出産した自分も100点満点だとほめられているような気持ちになり、うれしくなりました。親子関係は、毎日穏やかなことばかりではありませんが、講話を聞いた生徒たちが命を大切につないでくれたらいいなと思いました。
- ・改めていのちの大切さに気付かされました。我が子が生まれた時のことを思い出しました。できればたくさんの保護者に参加してもらいたいと思います。
- ・命のはじまりが、針の穴ほどの小さなもので、今こんなに大きく育った奇跡を感じ取ってくれたのではない かと感じました。多感な年頃だからこそ大切な話だと思います。帰宅後、生まれた時の様子を聞かれたので、良い機会となりました。
- ・あらためて、一人一人の存在の尊さを感じられる貴重な時間となりました。

